



# 指宿の戦跡を訪ねて

〈 今 伝 える 事 〉

昭和二十年八月十五日、

四年間に及んだ

太平洋戦争が

終わりました。

平和で美しい

今の指宿に、

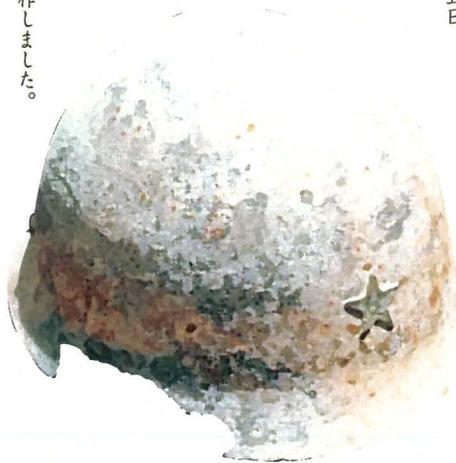
決してあるべき

ではなかった

戦争の傷跡を訪ね、

後世に残すために

私たちは映像を制作しました。



主催 / 指宿まるごと博物館構想推進実行委員会

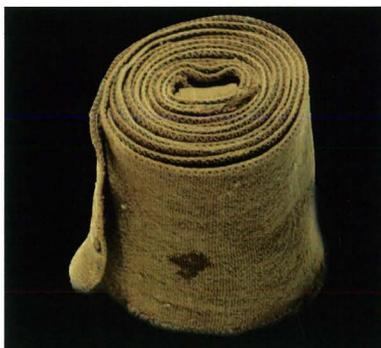
制作: いぶすきムービープロジェクト / 時遊館COCCOはしむれ 協力: 指宿市役所 / 公益社団法人 指宿市観光協会

昭和20年8月15日、4年間に及んだ太平洋戦争が終わりました。

連日、飛来するアメリカ軍の爆弾や戦闘機からの機銃掃射による攻撃に怯え、食べるものにも窮乏し、言論統制が敷かれた、戦争一色の日本は、この日、無条件降伏と言う形でアメリカを始めとする連合国に敗れ、終戦を迎えたのです。

今は、温暖な気候、温泉、風土で多くの人々で賑わい、豊かな食材を豊富に生み出しているこの指宿も戦争の大きな影が覆っていました。指宿の青い空をアメリカの爆撃機や戦闘機が飛び交い、美しい自然や建物を破壊し、今住んでいるこの地域の人々を殺傷しました。多くの若者たちは外国の戦地へと送られ、ある者は敵弾に倒れ、ある者は餓死し、ある者は機上で撃墜され、また、ある者は自らの命ごと敵に当たる、いわゆる特攻隊によって亡くなりました。当時の児童生徒も戦争に駆り出され、銃器、弾薬、飛行機の製造に従事しました。

平和で美しい今の指宿に、決してあるべきではなかった戦争の傷跡を訪ね、当時を生きた人々の証言と資料をもとに、この事実を後世に残すために「指宿の戦跡を訪ねて」と言うタイトルのもと、映像を制作しました。



▲ゲートル



▲国防婦人会宮ヶ浜組旗

▼千人針



▲ゆたんぼ



▲ガスマスク



▲水筒

# 山川町

## 山川電波観測所

太平洋戦争当時、海軍山川方探所と呼ばれた旧海軍の施設でした。戦後は、文部省電波物理研究所山川観測所として設立され、郵政省電波研究所山川電波観測所となり、現在は独立行政法人 情報通信研究機構 山川電波観測施設として、電離層の研究を行っています。

海軍山川方探所は、田良浜の指宿海軍航空基地建設に伴い、昭和18年に海軍の電波送信所として設置されました。通信施設を設置していた防空壕は今も残っています。

内部の機材、設備は終戦直後、旧海軍によって全て撤去され、現在は何も残っていません。敷地内には高電圧を使用したため冷やすために必要だったと思われる貯水池が残っています。現在は山川高校、山川中学校、山川図書館などが隣接していますが当時は周囲は畑で、秘密保持、電波の送受信の為に近隣に何も無い場所が選ばれたと思われます。このコンクリートで覆われた施設の内部15mの深さに、海軍の通信施設がありました。



▲ 耐震送信所



(山川電波観測所所蔵)

▲ 当時の山川方探所

## 山川町

昭和19年(1944)以降、山川町にもアメリカ空軍の爆撃が激しくなりました。戦闘要員は、兵隊ばかりではありませんでした。住民も、防空訓練・退避訓練に加えて、「敵兵一人一殺」のための竹槍訓練を繰り返しました。

大山青年会昭和20年日誌によれば、「午後四時集合、名誉ノ戦死者今村徳三君ノ遺骨出迎エヲ行ウ」「中村善二兄ノ応召ノタメ午前八時集合山川駅マデ見送りヲナス」「早起キニテ四時ニ起床。甘しょ増産・報国農場ノ奉仕」「山川海軍補給所奉仕」「午後九時非常呼集ニテ灯火管制実施検査」「桜井神社祈願祭参加」と記されています。



▲ 空襲を受けて燃え上がる山川町(イメージ)

しかし、こうした活動にもかかわらず、空爆はますます本格化、山川港が南方に派遣される船団の内地最後の中継基地だったため、特に爆撃目標にされたのです。それぞれの家庭には防空壕が作られ、それでも足りない場合に備えて、共同防空壕が作られました。

三月、山川港を襲撃してきたアメリカ空軍機一機を撃墜しました。六月、退避中の山川国民学校生五人が機銃掃射の犠牲になりました。決定的な空爆は、八月九日・十一日のものでした。焼夷弾が落とされ、港地区は火の海となり、大半が焼け出され、役場も焼失しました。

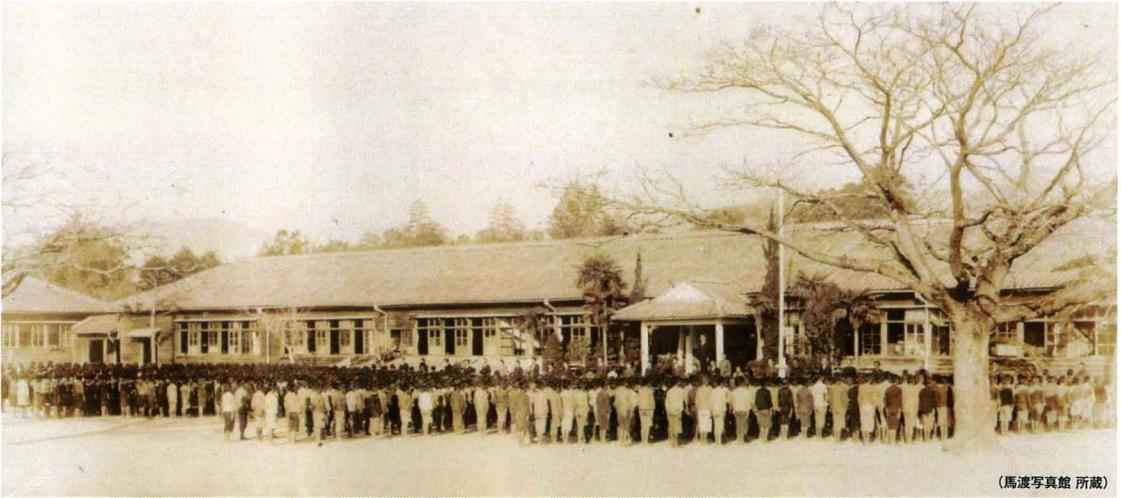
## 山川小学校 空襲

6月20日、現在の中学1年生にあたる、まだ13歳になったばかりの子どもたちが、空襲の犠牲になりました。当時5年生と6年生は授業をしていましたが、その空襲の時は警戒警報も警報も鳴らず、突然、すぐ逃げろの合図の「退避」を知らせる鐘の音が鳴り響きました。子どもたちは校庭の防空壕に向かって、止める先生の足の間をすり抜けて足の速い男の子数人が教室から飛び出しました。そこを低空飛行してきたグラマン戦闘機の機銃掃射が襲いかかりました。5人の男の子は即死、1人の男の子は足を撃たれ、片足を失いました。



▲ 旧山川小学校

# 指宿の戦跡を訪ねて



(馬渡写真館 所蔵)

▲ 昭和18年 旧丹波小学校の全校朝会

## 丹波小学校

丹波小学校には陸軍が駐屯し、子どもたちほとんど学習や学校生活もおくれませんでした。子どもたちは陸軍を対象とする米軍の攻撃から逃れるため、小学校横の丹波川の中を通して登下校していました。



▲ 医療器具



▲ 現在の丹波小学校



▲ 丹波川

## 指宿駅

指宿駅からは徴兵された兵隊たちが日々出征して行き、地区からは子どもから大人まで見送りに行きました。

また、指宿駅周辺から、当時田良にあった海軍航空基地がアメリカ軍による攻撃をうけた様子を目撃した人たちがいました。

以下は当時の空襲の様子を記載している指宿市誌からの抜粋です。



▲ 現在の指宿駅

# 指宿の戦跡を訪ねて

## 空襲

「三月十八日は、午前五時過ぎに警戒警報、六時ごろ空襲警報が発令され、米軍の艦載機来襲のラジオ放送があり、鹿屋航空隊が空襲された情報があった。田良航空隊も何回となく機銃掃射をうけ、この日は一日中波状攻撃が続き、午後六時ごろようやく警戒警報が解除になった。この日の米軍機の来襲は延べ二〇〇機といわれた。

翌十九日も午後三時ごろ空襲警報が発令され、グラマン機約三十機が田良航空隊を空襲し、銃撃を加えた。二日間にわたる空襲に対する被害状況は公表されないため全く不明であった。二十日も朝から警報が発令されたが米軍機の来襲はなかった。

四月に入っても空襲は激しくなり、毎日のように警報が出されたが、四月十五日は午後三時ごろ艦載機が田良航空隊を銃撃、同十六日も数十機の艦載機が田良航空隊を攻撃した。

さらに五月五日マリアナ基地のB29が九州および四国の飛行場を攻撃した。田良飛行場は午後三時四十五分ごろ、B29九機(三機編隊)が鹿児島湾入口から侵入し、田良の基地上空を鹿児島方向に通過した。間もなく鹿児島方面から舞い戻ってきたが、今度は逆方向に進路を変え、大山崎上空辺りで編隊を解き、一機ずつ田良航空隊に爆弾と焼夷弾を投下した。折からの北西の風にあおられて一瞬にして施設は破壊され、火災を起こして焼失した。この爆弾には時限爆弾も含まれており、ある程度の時間を経てから爆発する状況であった。また、B29の周辺に数機のグラマン機が援護しており、機銃掃射も激しかった。隊内にいた隊員に相当な死傷者が出たと聞いた。



▲現在の指宿駅ホーム



▲出征兵士の見送り



▲昭和14年頃の指宿駅

当時の目撃者は「田良航空隊が爆弾を投下された瞬間は、飛行場の上空に巨大なダウンツ型の大黒煙が舞い上がり、地上は砂塵で覆われ、火災が発生して兵舎等の施設は全焼した。」と語った。

五月七日もB29が来襲し、田良航空隊に爆弾を投下した。この相次ぐ空襲と、悪天候のもと昼夜を分かたぬ哨戒索敵行によって、百有余人の基地隊員の尊い命が失われている。

空襲は日増しに激しさを加え、八月十五日の終戦までひっきりなしに続いた。

# 指宿の戦跡を訪ねて



▲ 魚見岳から田良地区

## 田良地区の移転

太平洋戦争の戦局は予想以上に本土決戦の動きを深め沖縄決戦を前にして本土防衛のため前進基地として陸海軍の飛行場の建設が行われ、県下に陸軍3、海軍14、合計17の飛行場が建設されました。

田良浜の飛行場は海軍水上機基地として建設されましたが、田良浜の住民137戸は、海軍省命令により約800年も住みなれた土地をあとに、町内10か所に別れ住むことになりました。田良地区は、現在の市営野球場よりの道と、浜通りの道の合した辺りから魚見岳を背にして、浜通りを北へ道を挟んで現在の官有林のあるところまで続いていて、三分の二は

半農半漁、三分の一は農業で、徳川時代から明治の初年までは密貿易の街として栄えました。移転後の行先は、迫南、十町田良、湯之里、潟口海軍官舎附近、湊北稻荷神社附近、湊南劇場裏、柳田公民館附近、大牟礼東に移転しました。

道路は海軍橋（現在の塩浜橋）から一直線に飛行場まで、昭和16年から突貫工事で進められ、昭和17年8月ごろは完成しました。潟口海軍官舎は18年3月完成し、飛行場は同時に着工され、18年5月には飛行機（水上機）の発着が開始されました。飛行場兵舎は最後まで完成という段階に至らず、20年5月5日の空襲によってほとんど焼失してしまいました。



▲ 航空隊跡



▲ 旧地図

## 指宿海軍航空基地 特別攻撃隊

太平洋戦争は深刻となり、南方方面の情勢が逆転して日本軍は次第に後退し、フィリピンのルソン島に日本陸軍は、米軍の優勢な火力に壊滅的損害を受けていました。日本海軍は、既にほとんど全艦艇を失っていたので、米軍は優勢な機動部隊をもって沖縄防衛軍に猛撃を加えるようになっていました。そこで最後の非常手段として決死隊が編成されました。これは特別攻撃隊



▲ 当時の兵隊たち

# 指宿の戦跡を訪ねて

(特攻隊)と呼ばれ、飛行機に爆弾を積んで体当たり攻撃によって、敵艦船を撃沈させる戦略でした。

昭和46年6月8日旧海軍航空隊の滑走路の西隣に現存するコンクリート待避壕の上に指宿市かもめ会が建立した慰霊碑「指宿海軍航空基地哀惜の碑」の除幕式と慰霊祭が、遺族や関係者約300人が出席してしめやかに執り行われました。以来毎年5月27日(旧海軍記念日)にカモメ会が現地で慰霊祭と総会を行っています。



(馬渡写真館 所蔵)

▲ 指宿海岸の水上飛行機



(馬渡写真館 所蔵)

▲ 指宿航空隊所属隊員



(馬渡写真館 所蔵)

▲ 宮ヶ浜沖の飛行艇



▲ 魚見岳防空壕



▲ 田良防空壕

## 魚見地区にある指宿海軍航空基地の旧施設



▲ 魚見岳山中にある貯水池

**すいとん**

終戦前後の食糧難の時代、小麦粉を練って簡単な味付けの汁ものに入れた食べ物。「指宿の戦跡を訪ねて」というバスツアーをしたときに、観光ガイド会の方が作ってくださいました。

### 母子の悲劇 ▶

現在、大牟礼地区にあるロータリー公園は以前、尾立墓と言う墓地で、隣接していたお寺の家族が連日の空襲による爆撃でお母さんは亡くなり、姉妹は重傷を負いました。





指宿市地図

出演

ガイド 馬場幸男  
林山重孝  
馬渡成貴  
王子田貴進

すいとん 吉留紀代子  
川美代子  
番園弘子  
上玉利すみ  
徳田恭子

ツアー参加 西内優太  
堀之内杏樹  
日高陸貴  
西村悠莉  
内原莉光  
濱崎真由  
河柳文一  
(山川電波観測所)  
大山治男

西牟田一三  
上 映 安 田 豊

遺書朗読 中村 宏一郎  
口山 真史  
竹之内 聡美

(光明禅寺)  
飯田 美佐子  
野口 マスミ  
(旧上原病院勤務)  
中橋 テルコ

スタッフ  
撮 影 やまぐちめぐみ  
吉 裕 秀 見  
音 声 中村 睦夫  
模型制作 長坂 参郎  
イラスト制作 鈴木 郷  
CG制作 林 田 格

音 楽 坂 本 楓

テ マ 下川路 慶和

整 音 山 中 宏 彦

マネージメント 堀之内 弘江

実 務 下 吉 昭 人  
中 島 美 香  
湯 之 上 亮

ロケバス 山下 幸一

ナレーション/英訳 堀之内 弘江

英訳補佐 IBS外語学院

監 督 下川路 慶和

参考文献

指宿市誌 指宿海軍航空基地を偲びて  
山川町誌 (指宿海軍航空基地愛惜の碑顕彰会発行)  
開聞町誌 嗚呼、田良の里 旧田良地区記念誌  
続嗚呼、田良の里 旧田良地区記念誌  
浜ん村風土記 野元正広著

協力

馬渡写真館 指宿市立図書館  
新村建設 指宿市観光協会  
指宿海上ホテル 指宿市民会館  
光明禅寺 独立行政法人 情報通信研究機構 山川電波観測施設  
指宿市 機構 馬場木工所  
指宿市立南指宿中学校 堀之内謙郎  
指宿市立丹波小学校 JR指宿駅  
指宿市立今和泉小学校 JR山川駅  
宮ヶ浜公民館 ラ・ボンバ  
魚見校区公民館  
指宿市かもめ会  
指宿市教育委員会 株式会社 イースト朝日  
指宿市社会福祉協議会 株式会社 光陽社  
指宿市考古博物館 スタジオドッグ  
時遊館COCCOはしむれ 有限会社 指宿安田保険

制作 / いぶすきムービープロジェクト

平成25年度 文化庁 地域と共働した美術館 歴史博物館創造活動支援事業